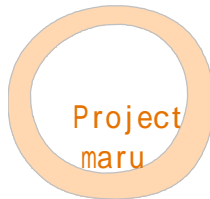


富山発



出前説明会



富山県保険医協会副会長
小熊清史

おぐま・きよし
1948年生まれ。1972年東京医科歯科大学歯学部卒。

富山から始まった「出前説明会」は、そのユニークさで注目を集めている。「出前」の効用は多面的であり、それを引き出すためには工夫が必要である。理解を深め感性を磨いて、次なる闘いに備えよう。

1. はじめに

01年4月の小泉内閣発足から翌年7月の改正健保法成立、短い期間に医療をめぐる情勢は厳しさを極めました。

全国でさまざまな運動が繰り広げられましたが、なかでも富山県保険医協会の「出前説明会」が注目を集め、高く評価されています。

以下、富山の経験を紹介させていただきます。

2. 「改革」が暴走する

変転の激しい時代です。ほんの1年前のことさえ、忘却の淵へ沈んでしまいがちです。

小泉内閣発足から年末までの「医療改革」関連の出来事と主な全国紙の社説を表にしました。(表1)

表には加えませんでした。共同通信社から「論説資料」なる原稿を買っている地方新聞の多くが、それにほんの少し手を加えたものを「社説」として掲載しています。

権力とメディアによって世論誘導がなされ、小泉「改革」に異を唱えることがはばかられるような雰囲気がつくられました。医療界には閉塞感が広がっていました。

3. 悔いを残すな

01年秋、富山協会理事会にて、重要な議論がありました。医療をめぐる情勢は、分水嶺ともいべき重要な時期にある。悔いのない運動を繰り広げよう。そのためには費用を惜しまずに投入しよう というものです。

かといって、小協会の財政規模ではタカが知れています。「マスメディア」に対抗して「ゲリラメディア」、「出前説明会」をやろう。宣伝媒体はデザインを外注して見栄えのいいものにしよう と決定しました。

デザインの外注は初めてのことでした。いまままでにない垢抜けしたポスターに感激です。このデザインは後にパンフレット「グラフでみる医療改革」の表紙にもなりました。(図1)

0426	小泉内閣発足
0612	「医療費総額の伸びの抑制」 厚生労働省基本構想
0614	毎日 医療費 総額抑制するのは当然だ
0619	朝日 医療費抑制 なすべき事を着実に
0626	「骨太の方針」 経済財政諮問会議閣議決定
0720	朝日 医療費抑制 総論では判断できない
0723	毎日 205円ルール 不透明な制度をなぜ残す
0725	読売 改革を問う 『痛み』を語ることから逃げるな
0726	毎日 案ずるより、まず実行を 規制改革
0807	読売 医療規制改革 無駄を排し患者本位を目指せ
0831	高齢者医療を75歳以上に引き上げ 坂口厚労相が表明
0902	毎日 高齢医療75歳 聖域設けずメスを入れよ
0904	読売 医療改革 無駄の構造に大胆に切り込め
0906	健保本人の負担3割に 厚労省方針
0907	朝日 健保3割負担 診療報酬引き下げが条件だ
0907	毎日 健保負担増 応急措置に終わらせろ
0925	厚生労働省、医療制度改革試案公表
0926	毎日 医療制度改革 老若合わせた総額抑制を
0927	読売 医療制度改革 負担増だけに終わらせろ
1001	朝日 医療制度改革 痛み止めの余裕はない
1107	小泉首相、医療制度改革断行を指示「三方一両損」
1118	毎日 医療制度改革 今度こそ先送りには許されぬ
1126	朝日 205円ルール 医師会も廃止受け入れよ
1129	医療制度改革大綱 政府・与党社会保障改革協議会
1130	読売 医療制度改革 『三方一両損』の名に値しない
1130	毎日 医療制度改革 「三方一両損」の看板が泣く
1201	朝日 医療制度改革 後退が後退を生む恐れ
1211	「規制改革の推進に関する第1次答申」 総合規制改革会議
1214	毎日 診療報酬改定 5%以上引き下げの決断を
1219	読売 診療報酬下げ これは改革の一步に過ぎない
1223	朝日 医療抜本改革 一息ついてはいられない

4. 役員が御用聞き

15人以上の集まりで、1時間～1時間半の時間と会場を確保することを条件に「出前」の注文を募集しました。動員は先方におまかせで、こちらは「中身」に専念します。

ポスターとチラシを会員に配布し、宣伝していただきました。「健康講話」との抱き合わせ企画も呼びかけました。会員からの紹介で、町内会や老人クラブ、業者団体などの申込みが相次ぎ、すぐに2ヶ月分約20回の予定が埋まってしまいました。ひとりで5件以上も注文をとってきた役員もいます。

そのような役員の言葉を紹介します。

5. 役員の感想

『当院の出入りの各種業者や患者さんの中で、問題意識を感じていそうな方にパンフを渡して説明しました。商工会などにも注文取りに行きました。団体の特徴を出す意味で、医師・歯科医師の医療講座もドッキングしての出前です。

私が数カ所で行って感じたことは、地域の皆さんは白衣を脱いだドクターとの交流を、本当に希望しておられるということです。診療所から見る世間よりずっと楽しい会話が生まれました。またそうする事により、出前説明会を聞きましたよ、なんて言われる患者さんも増えました。

最初の一步は大変ですが、その一步を踏み出すと地域の人との楽しい出会いが待っています。頑張りましょう。』

(富山協会理事 岡宗祐二郎先生)

6. パネル作成

説明用に、きれいで見やすいパネルを作りたい。問い合わせしてみると手の届く金額でできることがわかりました。

すでに「出前」の予定は入っています。事務局はパネル作りで大忙しになりました。11月上旬に出来上がったあとも、情勢の変化などに合わせて、たびたび改訂作業が必要になりました。

この時期の作業を事務局員は次のように述懐しています。

『てんやわんやの日々でしたが、目にみえる仕事というのは、やっても楽しいものです。』（勝田登志子＝事務局次長）

『説明したい内容を図表化することがこんなにも難しいとは思いませんでした。息子に「お父さん久しぶりだね」と声をかけられショック...』（土井野弘＝9年目の事務局主査）

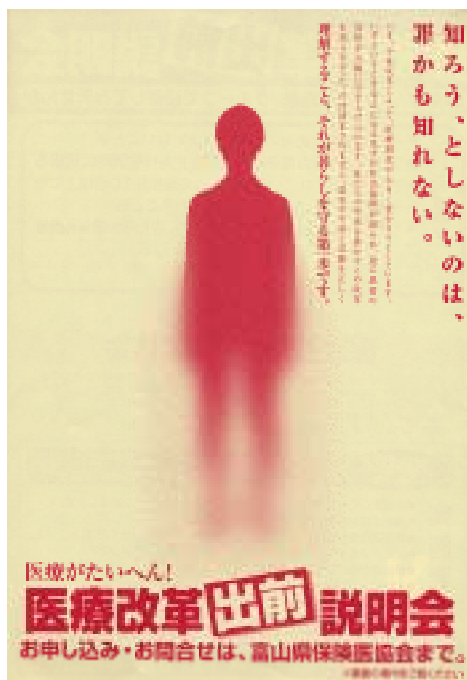
『大変勉強になりました。知識もさることながら、内容確認で役所、パネルを作る上で業者と話をすることで、業務の幅(?)も広がった感じがします。』（林茂雄＝2年目の事務局員）

作ったパネルは全部で約50種類です。全国の協会や医療団体向けに100セット近くを頒布しました。

7. パネルの1例

一枚のパネルを例にとり、その成立過程を紹介します。(図2)

9月、厚生労働省が医療制度改革試案を公表しました。それによれば、6ヶ月超の長期



入院患者の負担が急増し、「老人難民」が発生しかねません。

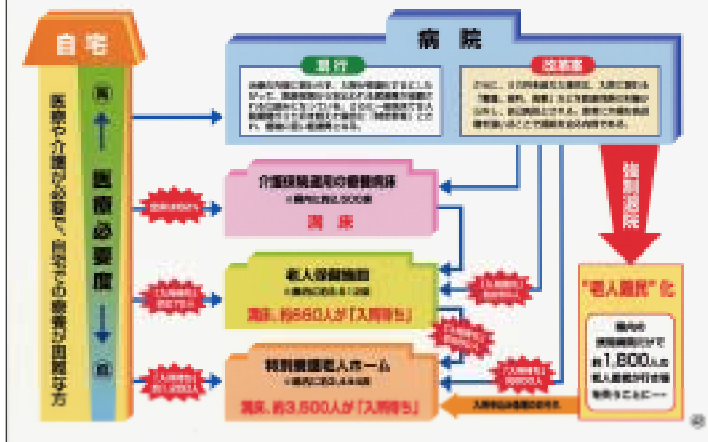
富山協会では県内の民間病院を対象に調査し、44%の患者が6ヶ月を超えて入院していることがわかりました。さらに、特養や老健に対しても調査を行い、定員に相当する入所待ちがあり、あらたな需要には対応できないことが明らかになりました。このときの調査への回答率は70～80%と特筆すべき高さでした。

この件については、富山の調査結果が国会の質疑でもとりあげられ、問題の深刻さが広く知られるところとなりました。

8. まず足元から

本格的に一般向けの「出前説明会」が動き出す前に、医療関係者に理解を深めていただく必要があると考えました。11月初旬、会員とスタッフ向けの「医療改革説明会」を県下4会場で6回実施し、参加者は659名。

6カ月超入院患者の締め出し問題と特養等の入所待ち状況



「よくわかった!」、「次にどういう行動をおこせばいいのか」、「医療人として自信をとりもどした」などの感想が寄せられました。

胸を張って小泉改革に「ノー」と言える。「抵抗勢力」であることに誇りを持てるようになった 協会の雰囲気がかがらりと変わりました。

9. みんなが講師に

事務局全員が分担して2人組みで「出前」にでることにしました。そのため、講師用虎の巻をつくり、テープに録音して聞きなおすなど涙ぐましい努力でした。

パネルをつくり「出前」の講師を務めることで、事務局は飛躍的にパワーアップしました。説明し反応を確かめることの繰り返しですが、理解を深め感性を研ぎ澄ますように仕向けます。個々人の能力向上もさることながら、事務局のチームワークもいままでになく強固になりました。

「出前」を实践されている協会のなかには、話の得意な人に任せきりにしているところもあると聞きます。もったいないことです。

10. 事務局の感想

『共感がひろがり、大きな自信になりました。』
(平井隆 = 事務局長)

『二人一組はとても良い結果をうんだと思います。他の人の話し方を聞きながら、次ぎのときは参考にしながら進めました。』
(勝田登志子 = 事務局次長)

『準備にかける時間は半端ではありませんでした。

説明の仕方が悪いと、何を言っても言い訳にしか聞こえないようです。どっと汗が噴き出すこともありました。』
(松村茂 = 事務局次長)

『表情や仕草がストレートな参加者を複数みつけるのがコツです!』
(土井野弘 = 事務局主査)

『何よりも自分自身の勉強になりました。最初のうちはグラフの中身を読み上げるだけでしたが、回数を重ねるにつれて理解が進み、その意味する裏側まで話せるようになりました。』
(杉田瑞樹 = 5年目の事務局員)

『ポイントを絞ること、参加者の反応を見ながら話すこと。これを怠ると厳しい感想が寄せられました。』
(林茂雄 = 2年目の事務局員)

『参加されている方たちの表情や、感想文を見て、本当にこの改革が「改悪」でしかないということを実感しました。』
(山千香子 = 1年目の事務局員)

11. 参加者が評価する

「出前説明会」は01年10月末から02年9月末までの約1年間で71回行いました。いまま

で協会と接点のなかった団体やグループが多く含まれます。参加者の総数は4162人。会員が紹介や健康講話などで大いに協力されました。

毎回、分かりやすさの評価、感想や意見、「出前」を希望（紹介）するかどうかについてアンケートをお願いしました。

1回につき1～2件の割りで「出前希望」の回答が寄せられています。これを丹念に拾い上げていけば「芋づる式」に「出前」が続きます。

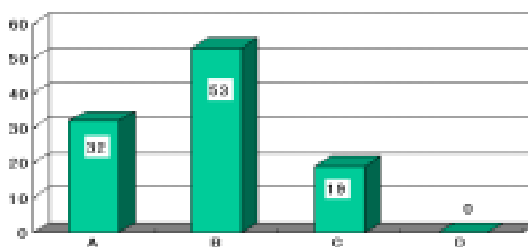
典型的な「出前」数件について集計したグラフを掲げます。（図3）

12. 参加者の感想が励み

アンケートの回答率は非常に高く、自由記

参加者の評価

10人～20人規模の「出前」17件からの集計
参加者132人、回答104人



評価A＝「たいへん分かりやすく内容がよく理解できた」
 評価B＝「分かりやすく、内容が理解できた」
 評価C＝「分かりにくく、内容の一部しか理解できなかった」
 評価D＝「たいへん分かりにくく、内容がよく理解できなかった」

述の感想や意見の欄にも、多くの声が寄せられました。新聞やテレビでは知らされることのなかった事実への驚き、「自分たちは分かった、他の人たちにも知らせてほしい」といった叱咤激励の意見が多く、次回への参考だけではなく、おおきな励みになりました。

感想や意見の一部を紹介します。（表2）

「出前説明会」参加者からの感想

- ・医師の収入は、患者からむしり取っていると思っていたが、国の制度に大きな問題があることがわかりました。（63歳男性）
- ・今までは三方一両損は仕方ないと思っていました。将来が不安なので、老後に向けてまず貯金と守りに入りました…。これをきっかけに関心の目を向けます。（59歳女性）
- ・不景気で収入が減っているのに、保険料が上がり、窓口負担も増すというのは、これからの生活に重苦しい影を落としています。今日、説明を聞いて内容がわかり、また他の方にも教えてあげたいと思います。（47歳女性）
- ・まさか医療改革の内容が、こんなに国民

に負担を強いるものだとは知らなかった。（28歳男性）

- ・このようなデータ分析、情報収集をぬかりなく続け、マスコミが流している表面的な「常識」を切りきざんでほしい。（47歳男性）

・日本は社会福祉行政が他国に比べ劣悪であることは承知していたが、「医療改革」の内容を知って、慄然とする思い。大反対運動をせねば。（72歳男性）

- ・すごく勉強になりました。知らないでいると、自分たちの生活がどんどん脅かされていくようで不安です。七十四歳の義母と同居していますので、今後どのようになるか自分達もできるだけ、自分達でできることを考えていきたい！（42歳女性）



13.液晶プロジェクター

広い会場ではパネルが見えにくいため、急速パネルからスライドを作成しました。

しかし、スライドにも会場によっては見えにくいという欠点があります。

そこで、液晶プロジェクターとノートパソコンを購入することにしました。結構な値段ですが、研究会等でも有効に活用できます。

プレゼンテーションソフトを使えば、簡単に図表を作って投影できます。なによりも機敏に内容を更新できることに価値があります。富山では「出前」に欠かせないツールになりました。まだ液晶プロジェクターを導入していない協会は、ぜひ検討してください。

14.紙芝居から絵本へ

手元において読み返すことのできるパンフレットもほしい。読み捨てにされないような立派な体裁にしたい。それには経費がかかる。富山協会が単独で出来ることではありません。

幸い、保団連の事業として取り上げられました。パネルをもとにカラー印刷の冊子をつ

くる。富山に編集の本拠を置き、保団連や他協会から助っ人が参加。グラフを見直し、必要なものを新たに作り、解説文を作り、と大車輪でした。この作業には02年1月いっぱいかかり、円形脱毛症になる者や高熱を発してダウンする者が続出しました。

月刊保団連増刊号として刊行されたパンフレット「グラフで見る医療改革」は大好評を得、20万部印刷したあとすぐに20万部を増刷しました。

各地でさまざまに活用されていることと思います。富山では書店でも販売しました。200冊余が売れ、購入した人から「出前」の申し込みもありました。富山協会で活用したパンフは6万5千部に及びます。

15.おわりに

まとめとして「出前説明会」の効能を掲げます。

連帯の輪がつぎつぎに広がる 会の知名度・信頼度がアップする みんなでやればスゴイことができる 事務局が大きくパワーアップする 会全体が元気になる
--

結局、健保法は成立してしまいました。しかし、富山協会には敗北感はありません。能天気な揃っているのではありません。今後の活動に確かな手ごたえを感じています。

富山の経験が、皆様のお役に立つことができれば、これにまさる喜びはありません。さあ反撃のときです。